

# 日本共産党一斉宣伝 中津川市2ヶ所で通勤者にスタンディングアピール



## 9月議会報告 市民の願いに背を向ける青山市政

**9月11日**  
**木下りつ子市議の**  
**一般質問**

**福岡産廃裁判！**  
**環境を守るため**  
**国とたたかう住民に**  
**市長として面談を！**

現在名古屋高裁で国を相手にたたかっている「中津川の産廃施設建設に反対する住民の会」は5万筆の「中津川産廃訴訟の公正な審理を求める署名」に取り組まれた。

「地下水使用者はなし、柏原川利用者もなし、住民は周知している」との中津川市の間違った報告から始まったこの産廃問題。「住民の会」は、だからこそ原告団の運動や身をわかっていただきたいと青山市長に面談を申し込みました。しかし「係争中」だからと面談拒否。

**木下** たたかっているのは国と住民で市は関係ない。地方自治体は住民の生活と権利を守るべきであり、住民が国によって不当な

公害（ダイオキシン）被害にさらされる恐れがあるとき、自治体はこの住民を守るべきでは？ 励ましの言葉もかけられませんか？



行政の長として法令を遵守しなければならぬ。係争中なので面談できない。

**市長** 行政の長として法令を遵守しなければならぬ。係争中なので面談できない。

**高すぎる国民健康保険料**  
**1万円の引き下げを！**

**木下** 保険料は平成23年度から毎年引き上げられてきました。その結果、23年度から29年度までに平均で3万円も引き上げられました。一方所得は、23年と29年の比較で約6万円も下がっています。その結果、28年度末には約6億円も余りました。国保加入者数は1万6千人。1億6千万円、1万円の引き下げはできませぬか？

本会議での一般質問は、時間の融通をつけて傍聴している。特に木下さんは市民要求を丁寧に聴いて、これを直球で毎議会発言してとても頼もしく思います。今回も「新生児の補助を」など4密着型の質問をさ中でも、現在裁廃施設設置についての現地調査を「経済なし」県への報告の。福岡地区の自分たちの声の再理由に聞く耳を持でした。木下さんの想いを直接聞こと迫りました。市は「係争中」り。市長の回答は木下さんから「あまりにも冷たすぎる」の発言に満員の傍聴席から一斉に「冷たすぎる」の声が上がりました。木下さんを引き続き応援していきたい。

来年から市町村単位から都道府県単位になるのに備え、なにがあるか想定できないので引き下げはできない。

**新生児の難聴検査に補助金を！**

**木下** 出産入院中に行う聴覚検査で難聴の早期発見早期治療で難聴を治せる。岐阜県内35の自治体では自治体から補助3700円を出している。出生数600人前後。222万円あればできる。市として実施できないか？



**部長** 現在、補助しなくてもほとんど検査は受けている。補助はしない。子育て支援を総合的に検討する。

**市長** 産のな績もにいのを市民うとしないのか」を口にするばかり、全前進せず、冷たすぎる」の声を聞き取りたい。

的に検討する  
**坂下病院問題は次号に**

**一般質問を終えて**

多くの傍聴に感謝します。4点にわたって質問。◆産廃問題では、大山市政での市の誤りはしつかりと認めて答弁されましたが、今住民は大きな国を相手に裁判でたたかっている時に、「係争中」を盾に励ましの声もかけられない。そんな国がこわいのかと思う。◆国保料が高すぎて払えない世帯が増えている。1万円の引き下げはできる金額の6億円余つてもやらないという。◆新生児の聴覚検査について、222万もあればできるのにやらないという。◆坂下病院問題は市長から反問された。時間切れでできなかったら次号で答えます。木下りつ子

### 民報なかつがわ

No.334 2017年9月17日  
発行：日本共産党中津川市委員会  
連絡先：木下りつ子 TEL 090-9262-0092  
日本共産党中津川市委員会の政策や活動を紹介しします。



**細葉百日草**  
別名ジニア・リネアリス。キク科ジニア属。春まき一年草。大きさは4〜6cm、草丈10〜20cm。花色は白・黄・橙。花期6〜9月。百日草に比べ葉が線状で細く、互生。特に耐暑性が強く鑑賞期間の長い品種。株元や茎から分枝が多く、小花がいつぱい咲く。これは友人の庭にかわいく咲いていたので思わずパチリ。花言葉は「友への思い」。

# 読者の広場

## 独居老人のつぶやき①



(M・堀越)

テレビの録画装置を修理した。暑い日ではあったが国道沿いを歩いてその電器店に立ち寄った。リュックを背負い汗を拭きながら立っているむさくろしい男は、エアコンの利いた小きれいなこの店には、確かに不釣り合いだ。領収書を切りながらその店の女性は、本当にビックリした様子で「歩いて来たんですか」。おれは宇宙人ではない。質素に生活しているだけだ。車はないしスマホもない。エアコンの使用も絶えて久しいが別段支障もない。

東京新聞に興味深い記事が載っていた。ある大学の先生が授業で「ケータイもスマホも、持ってないし、持ったことがないし、これから持つつもりもない。ついでに、自宅はネットにつながってないよ」と話したところ、「ホントですか？」とのけぞったり、一瞬の沈黙後、珍獣に遭遇したかのように「プツ」と噴き出したり、「どうやって生きているんですか」と真顔で心配されたそうだ。

このギャップは一体何なんだろう。理屈で考えようとするとな全体像が歪になる。どこかを固定すると、固定したはずのどこかが動き出す。モグラたたきをしている様だ。そんな折り一篇の詩に出合った。短い言葉のなかに独居

老人の思いすべてが詰まってるこの詩を、一部だけご紹介するね。

車がない

ワープロがない

ビデオデッキがない

ファックスがない

パソコン インターネット 見たこともない

けれど格別支障もない

そんなに情報集めてどうするの

そんなに急いで何をするの

頭はからっぽのまま

すぐに古びるがらくたは

我が山門に入るを許さず

(山門だって、木戸しかないのに)

はたから見れば嘲笑の時代おくれ

けれど進んで選びとった時代おくれ

もつともつと遅れたい

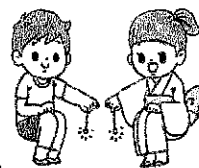
(茨木のり子「時代おくれ」より)



## 地域で「花火お楽しみ会」

8月19日の夕方、松田地域の「花火お楽しみ会」に参加しました。幼児から大人を含め近所の10数軒20数人が、手料理と飲み物を持ち寄って交流しました。

「花火お楽しみ会」は今年で十一回目。学生や夏休みで帰ってきた若者の参加で盛り上がりました。(M・S)



## 戦時中の思い出と「花火」

多くの市民が中津川の花火大会を楽しんでいる時、「花火の音や光が戦時中を思い出して辛い」と、そんな思いをされている方を知りました。

終戦間際の6月。北九州市の軍需工場近くで戦闘機B29の焼夷弾攻撃で逃げ惑ったKさん。「照明弾が落とされるとアリの姿までハッキリと判ってしまう。道路の側面に掘った穴に隠れた人は殆どが亡くなってしまった。自分達は桑畑に逃げ込んで助かった」。当時、小学校の5年生だったKさんの父親は出兵で留守。母親は軍需工場。幼い妹2人の面倒を見ながら、Kさんは町内で皆が嫌がる死体の後片付けをしていたそうです。

平和が一番。紛争は平和的対話で解決を！(K・大竹)